

たんぽぽ学級 道徳科学習指導案

授業者 森 奈保美

- 1 主題構成表
 主題名 明るいあいさつ
 資料名 たびに 出て

■ 内容項目 B 礼儀
 気持ちのよいあいさつ，言葉遣い，動作などに心掛けて，明るく接すること。

■ 価値の分析

- 日常生活におけるあいさつは，望ましい人間関係を築くために身に付けておくべき最も基本となるものである。集団生活の中で人と人との関わりを深め，互いに温かい豊かな人間関係を築くためにはあいさつは欠かせないものである。また，新しい人との出会いにおいては，自発的にあいさつすることによって，心が開かれ新しい人間関係ができ，楽しく円滑な生活を送ることができる。
- 気持ちのよいあいさつは，自分の心だけでなく相手の心まで和ませることができる。場に応じたあいさつの習慣を身に付けることは，将来に渡って生活の中で必要である。
- 本当の意味でのあいさつは単に言葉を発するだけではなく，相手を敬い尊重する気持ちが表出されるものである。真心を込めて相手を思いやって素直な気持ちであいさつすることで相手に気持ちが届く。
- 具体的な場面で，繰り返し声を発し練習を行い，時と場に応じたあいさつを教え身に付けていくことが必要である。

■ 内容項目から見た児童の実態

- 本学級，知的障がい特別支援学級には6名の児童が在籍し，発達段階は様々である。全員で行う朝の会や帰りの会でのあいさつはできている。タイミングがよければ自分からあいさつをすることもあるが，あいさつをされても返すことができないこともある。
 - あいさつは気持ちよく過ごすためにしているというよりは，「相手から言われるからする」という考えが少なくない。
- (要因)
- 発達段階から語彙が少なくて時と場に応じた話し方が十分に身に付いていないことが考えられる。また，人が苦手であいさつができないことが考えられる。
 - 家庭や学校で「気持ちのよいあいさつは必要」と言われるから，そうだと漠然とあいさつを行っているが，その必要性については考えたことが少ない。
 - また，あいさつをしなくても何ら困ることはなく，あいさつして気持ちいいという体験も少ないためだと考えられる。

■ 資料の分析 たびに 出て

- 主人公のサルのけいたはみんな元気にあいさつをする「あいさつじま」に住んでいた。しかし，けいたは相手にあいさつをされても答えようとしない。そのときのけいたの心情を考えさせることで，相手からあいさつされても恥ずかしかったり面倒になったり，必要と感じなかったりしてできないことがあることに気付くことができる。
- けいたは水飲み場が知りたくて話しかけるが，サルたちは黙って行ってしまう。その夜けいたは，「あいさつじま」のことを思い出し，次の日からあいさつをしてみることにする。はじめは，小さい声でしかあいさつが帰ってこなかったが，だんだんあいさつが広がってくるようになった。明るいあいさつが返ってくるのときの心情を考えさせることで，あいさつの心地よさに気付くことができる。

■ ねらい

明るいあいさつをしたときの心地よさに気づき，相手を意識したあいさつに心掛け，明るく接しようとする心情を育てる。

■ 展開の構想

- お話を聞き，「あいさつじまであいさつができないとき」と「あいさつのないしまであいさつがあふれたとき」の場面のけいたの心情を考えさせる。
- わたしたちの道徳「気持ちのよいふるまいを」を使って，いろいろなあいさつの仕方について考え練習する。
- 自分たちがあいさつしている様子を発表したり紹介されたりすることで，その大切さを改めて感じ，これからはあいさつをしていこうという気持ちを高める。

■ 判断力・心情・実践意欲を高める工夫

- [中心発問] あいさつを進んでしている場面で発問し，けいたの心情を考えることで，ねらいとする価値内容に気付かせる。
- [表現活動] 表情カードを活用することで，快か不快か大まかな心情を捉えさせ気持ちを考えることにつなげたい。
- [表現活動] 教師と児童で役割演技をして，やりとりをしながら，登場人物の気持ちを考えやすくしたい。また，上手く言葉が出ないときには，支援員と教師で役割演技をして具体的に話すことを示したい。
- [体験活動] わたしたちの道徳の絵から，いろいろなあいさつがあることに気付かせ練習することであいさつをしようという意欲につなげる。

■ 道徳科と他の教育活動との関連 (補充 ・ 深化 ・ 統合)

学活「あいさつ名人になろう」→道徳科「たびに出て」→学活「あいさつ名人になろう」
 日常に取り組んでいるあいさつについてじっくり考えることを通して，明るいあいさつをすることの大切さについていっそう考えを深める。

2 学習指導過程

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導入	日常生活の中でどんなあいさつがあるか思い出すとともに、本時の話について興味をもつ。 ○「けいた」というおさるさんが登場します。	・主人公「けいた」について興味をもてるように紙芝居の絵の中からけいたを見つけさせる。
展開前段	資料「たびに出て」を聞いて話し合う。 ○あいさつじまであいさつされても反応しないけいたはどんな気持ちだったでしょう。 ・毎日出会った時にいちいちあいさつするなんて面倒だなあ。 ・どうしてあいさつなんかしているんだろう。別にしなくてもいいよ。 ・大きな声であいさつしてうるさいなあ、ぼくは静かなところが好きなんだ。 自分から「あいさつのないしま」に行ったけいたでしたが、どのような気持ちで自分からあいさつをしたのでしょうか。 ・あいさつをするとうれしい気持ちになるから。 ・あいさつをしていないと仲良くしていないみたい。みんなと仲良くしたいから。 ・あいさつをすると心がうきうきしてくるから。 ・「あいさつじま」でみんなと仲良くしていたように「あいさつのないしま」でもみんなとなかよくして遊びたいから。	・紙芝居を読むときに児童の集中を確認しながら、ゆっくり読むようにする。読み始めたときにさっと集中できた児童を認め褒めることで、集中できていない児童の集中を促す。 ・教師があいさつする他のサルたちになって、児童にけいた役をさせ役割演技をするなかで気持ちを考えさせる。 A B：語彙が少ないために、はじめに、表情カードを使い、あいさつをしないけいたの表情を真似て、あいさつをしようとしないうる気持ちを考えさせるようにする。上学年の児童の役割演技の様子を見せてから、見通しをもち挙手したとき指名する。簡単な言葉でも進んで挙手できた事を認め褒める。 C：FやEの言葉を板書し、役割演技をする手がかりとする。進んで挙手出来た事を認め褒める。 D：人にあいさつをすることが恥ずかしかったり面倒であったりしてあいさつができていないことがあるため、気持ちを素直に表現できたことを認め褒めることで、自分のあいさつについて自覚できるようにする。 E：発言に念を押し、普段あまりあいさつについて意識していないが、面倒だという考え方もあることに気付かせる。 F：はじめに指名し進んで発表できたことを認め褒める。 ・必要に応じて、役割演技をする見通しがもてるように、支援員と教師で役割演技をする。 ・「あいさつのないしま」であいさつをしてもあいさつが返ってこないときの寂しい気持ちに少し触れるようにする。 ・あいさつをしているけいたの表情を真似て学級全員で「おはよう。みんなおはよう。」と、元気に言い合うことで、あいさつをすると気持ちがよいことにつなげるようにする。 ・あいさつをして相手が笑顔になったのを見たときのけいたの気持ちにも触れ、あいさつをした時の心地よさに気付かせる。 ・教師が「あいさつのないしま」のサルたちになって、児童にけいた役をさせ役割演技をするなかで気持ちを考えさせる。
展開後段	わたしたちの道徳p.54, 55「気持ちのよいふるまいを」で学校や家庭でのいろいろなあいさつの言い方について考え、練習する。 ○いろいろなあいさつについて確認しながら練習をしよう。 ・どんなあいさつがよいのか確認する。 「自分から」「相手の顔を見て」「明るく」「大きな声で」 ・「おはようございます」「こんにちわ。」などの練習をする。	A B：あいさつを進んで行っているけいたの表情を表情カードを使って確認する。上学年の役割演技の様子を見せてから指名する。相手に反応された心地よさを表現できるようにする。 C：あいさつはしなくてはいけないという固定的な見方だけではなくあいさつすると爽快な気分になることにも問い返しの中で気付かせる。 D：あいさつをしないと叱られるとか嫌われるといった他律的な気持ちだけではなく、友だちの発言や問い返しをする中であいさつをしたときの心地よさにも気付かせる。 E：役割演技の中で、笑顔であいさつをしていることを認め全体に広め価値付けするようにする F：はじめに指名し進んで発表できたことを認め褒める。問い返しをしながらいろいろな気持ちを引き出しながら、日頃できているあいさつの大切さに気付かせる。 ・わたしたちの道徳を拡大したものを掲示しながらあいさつを確認し、いろいろなあいさつを練習していく。 ・「自分から」「相手の顔を見て」「明るく」「大きな声で」の挨拶とその逆の態度のあいさつを行い、あいさつをされた側の気持ちを考えさせる。そのことにより「自分から」「相手の顔を見て」「明るく」「大きな声で」のあいさつをし合うことの心地よさを体感できるようにする。
終末	気持ちのよいあいさつができているか、校内の先生からの手紙から自分の生活を振り返り、話し合う。 ○あいさつができるときのことやその時の相手の気持ちや自分の気持ちを思い出そう。 ・朝、教室で先生に大きな声で「おはようございます。」とあいさつをすると先生もいい気持ちになるんだなあ。あいさつっていいなあ。 ・職員室に入るとき「失礼します。」と大声で言っていたので、褒められてよかった。これからも頑張っておあいさつしよう。	・校内の先生に書いてもらったよくできているあいさつについての手紙を読む。その手紙には気持ちのよいあいさつをされたときの心地よさに触れてもらうようにしておく。 変容の見届け ・先生からの手紙によって、自分の生活を振り返り、自分にあいさつができていること、できるとよいことに気づき、前向きにがんばろうという気持ちをもっている。

たんぽぽ学級2学期 道徳 実態分析・評価シート

内容項目	教科・領域・活動	内容	評価	よさや成長
B 礼儀	学活	あいさつ名人になろう		
	道徳	たびに出て		
	体育	ボールゲームをしよう		
	日常	あいさつ		
	日常	登下校の様子		
	日常	掃除の様子		
	日常	給食の様子		
	日常	授業のはじめと終わり		
	日常	職員室や保健室への出入り		
	生活単元	ゲームをしよう		
	家庭	あいさつ		

< 2学期所見 >

評価のしかた 視点 B 礼儀

道徳の授業

- ・主人公のけいたの行動について考え、発表することができたか。
- ・いろいろな場でのあいさつの仕方を確認し、気持ちのよいあいさつ(相手の顔を見て、自分から、大きな声)の練習ができたか。

日常生活(あいさつなど)

- ・気持ちのよい生活のために、大きな声ではっきりとあいさつする。